

阿蘇 鷲ヶ峰 北稜 山行報告

〔令和3年（2021年）10月3日〕

参加者：中山 正浩・土橋 誠・古家 大三・岡村 繁雄

2日、北九州を昼出発。仙酔峡で夕食を兼ねてのミニ宴会後、テント泊

3日、記録を見ると7年ぶりの北稜。4時起床、日の出前の5時30分出発

2日 仙酔峡にて



3日 早朝 九重連山を望む



関門の遭難を記したレリーフ
浸食により年々高い位置になっている感じ



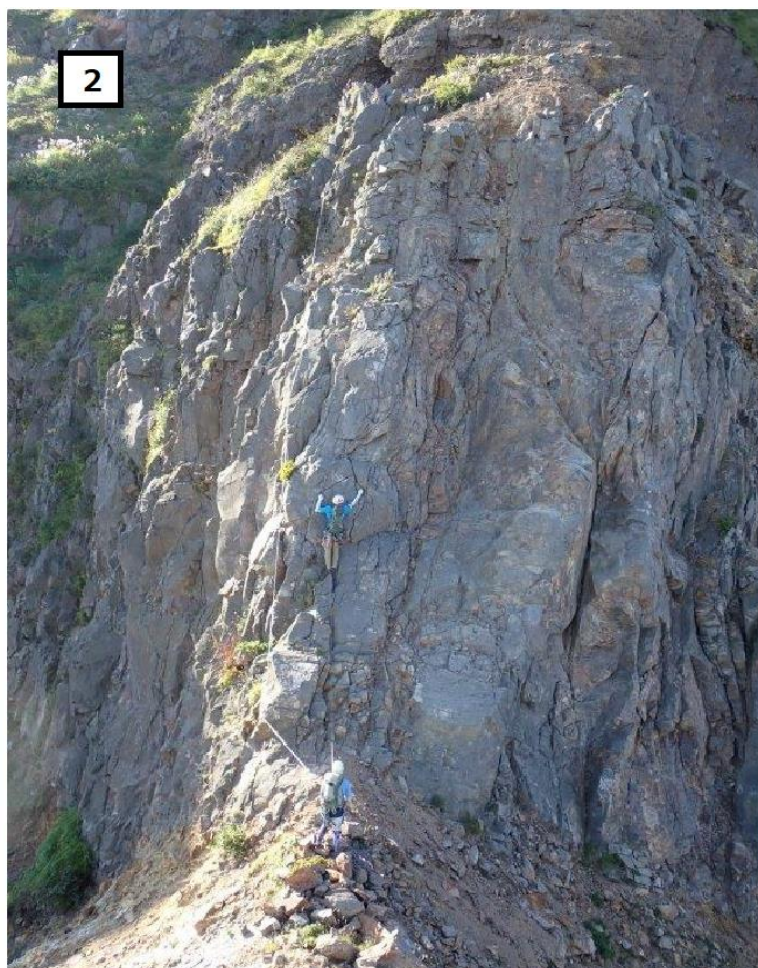
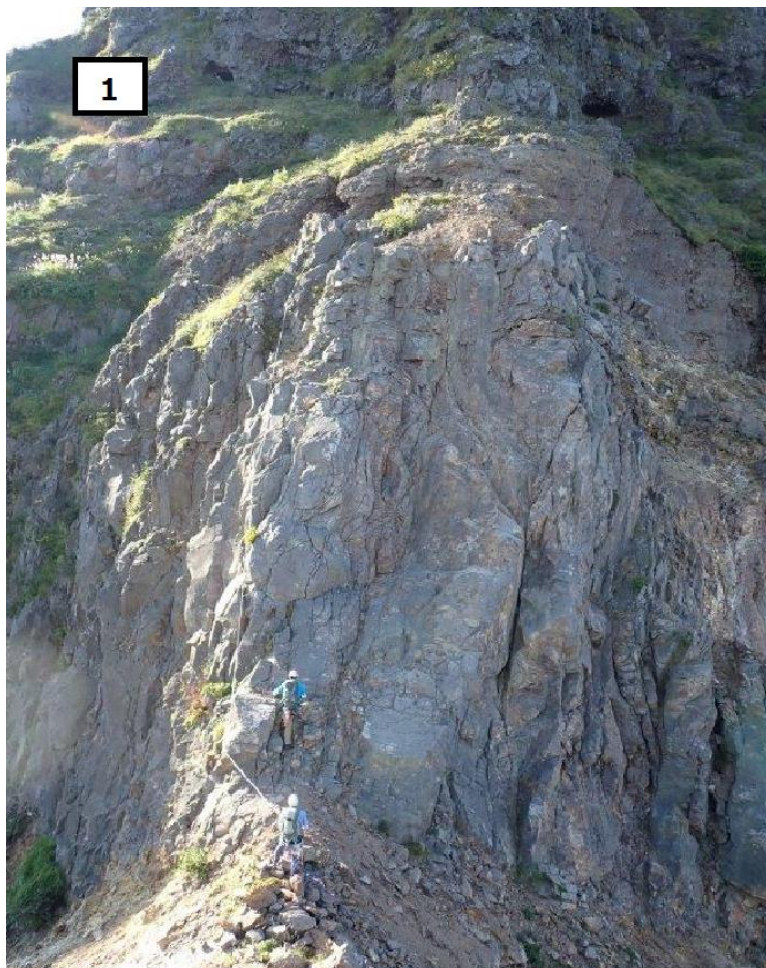
後方、虎ヶ峰

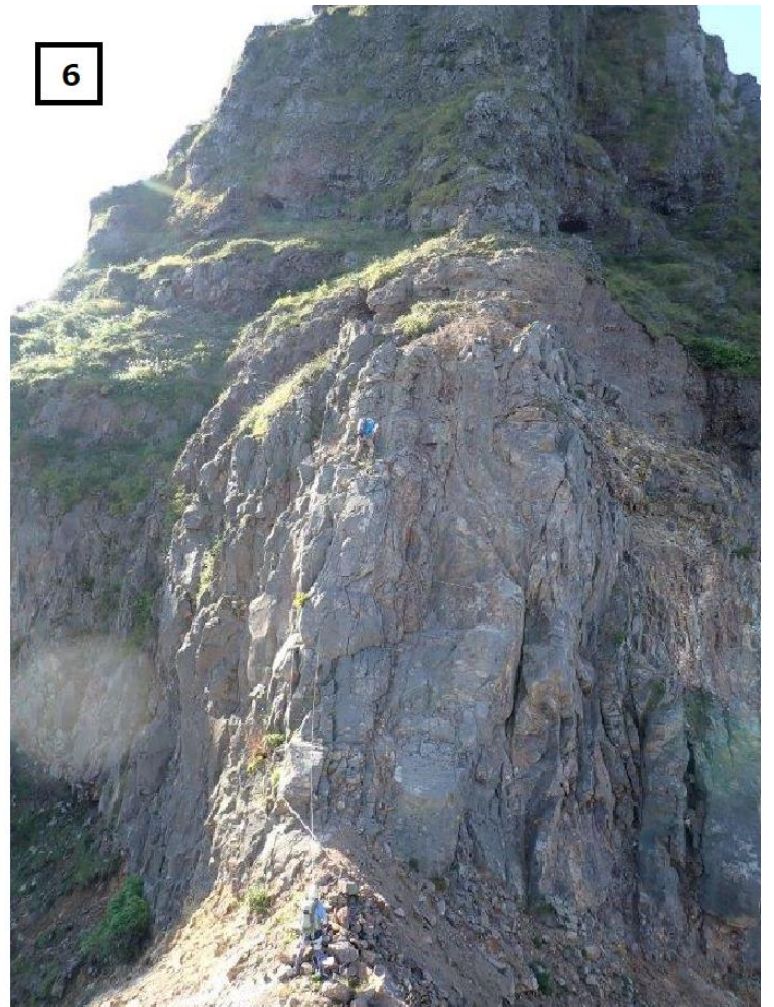
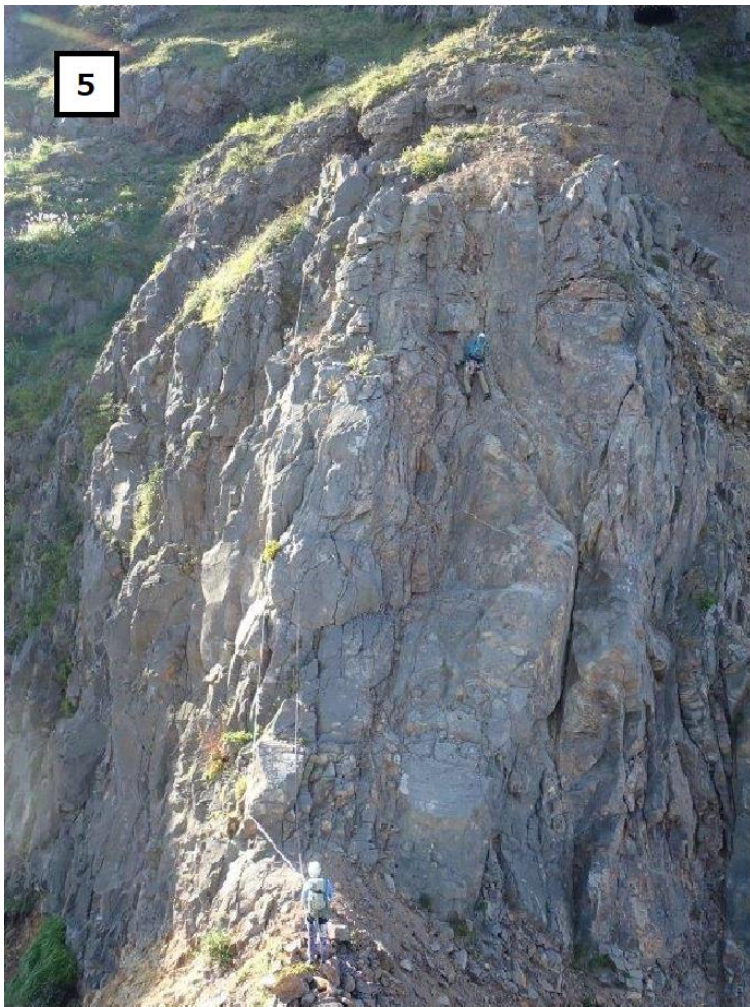
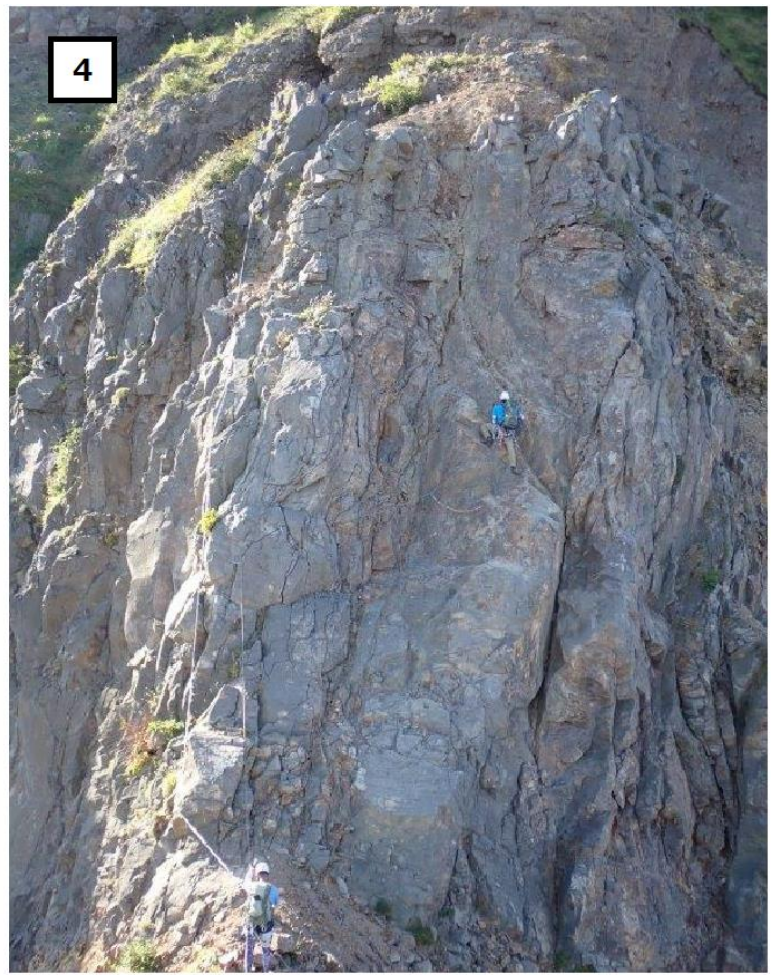
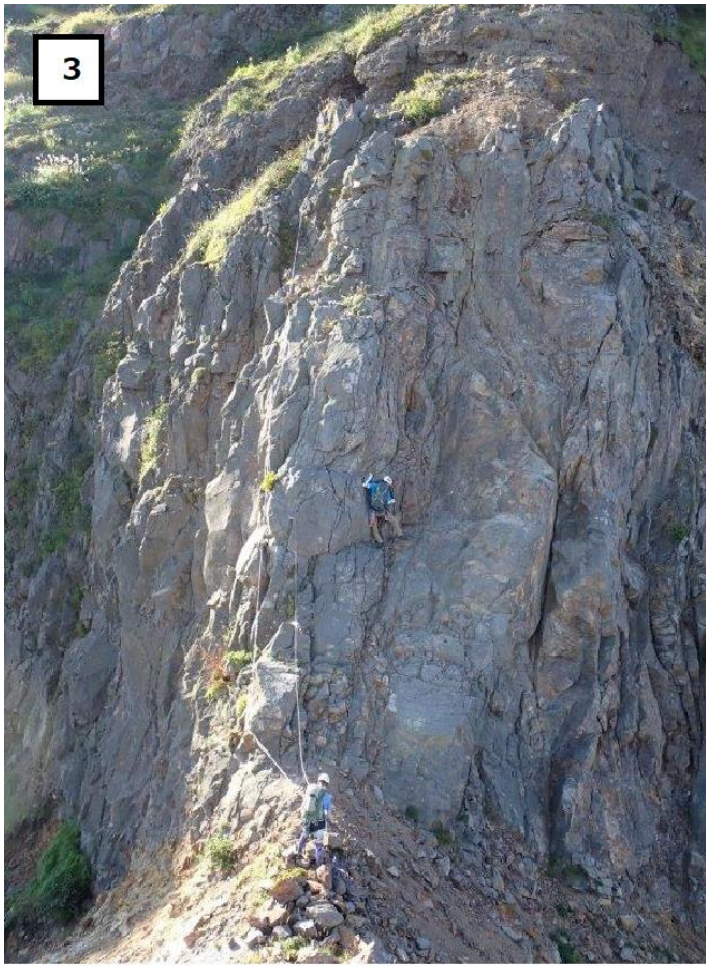
赤壁は毎回訪れるたびに崩壊が進んでおり、今回は土橋さんにトップを頼み、次回のために登攀ルートを確認。

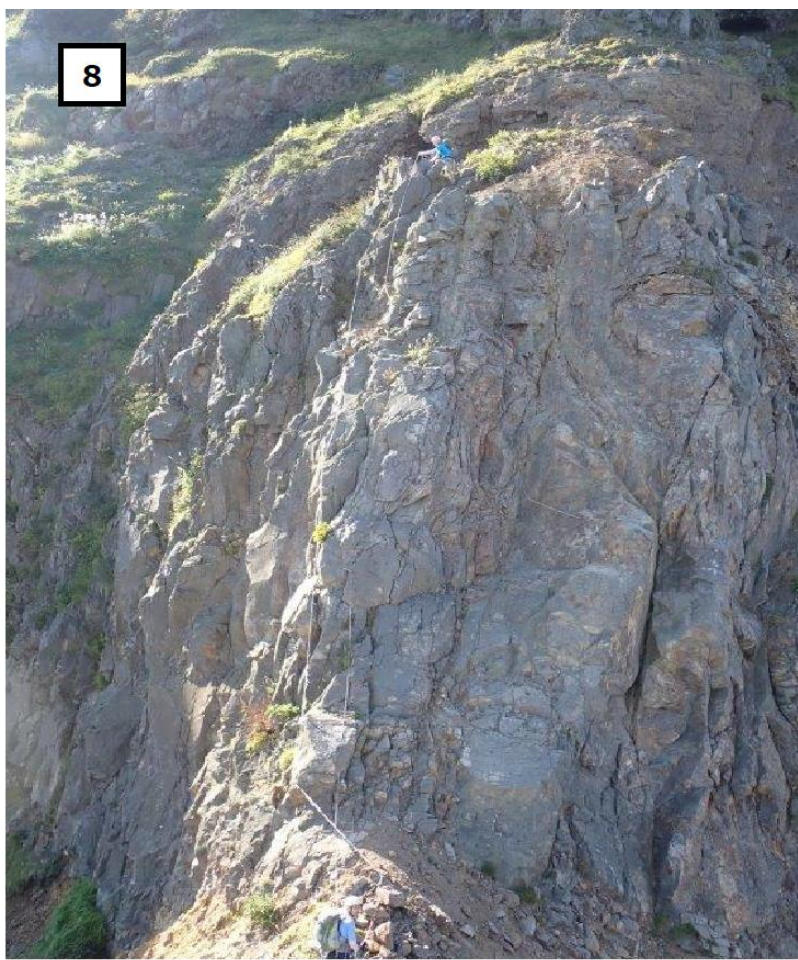
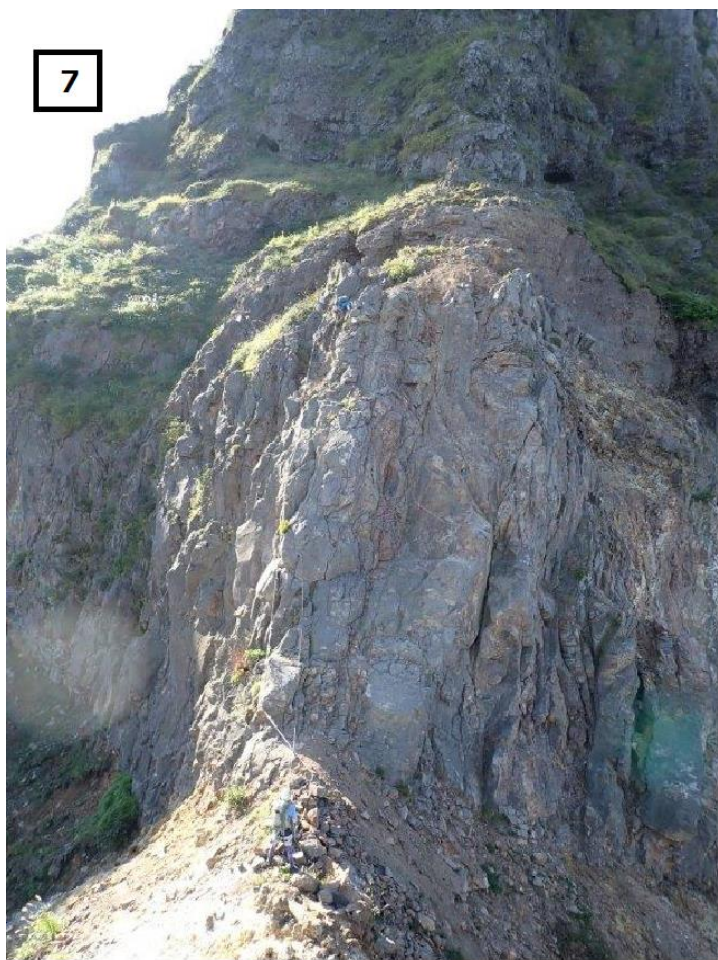
朽果てたロープの残置がある右側から回り込んで上がり、上部で左にトラバース後、上部へ上がり込むルートで登攀〔**1**～**8** 参照〕

他のパーティーは、左の朽果てたロープ沿いにルートを取って登攀しているのを後で確認。

今回登った右のルートは、登りやすいがザイルが流れにくくなるのでご注意。







赤壁登攀終了 前方 鷲ヶ峰 北稜



赤壁の上部でビレー中
前方 九重連山



鷲ヶ峰 北稜Ⅱピッチ目

北稜全体が風雨の浸食が進んで、堆積岩のむき出しが顕著なためスタンス、ホールドの確認を確実に
行いながらの登攀する必要があります。

Iピッチ目の途中、右足のスタンスが崩壊、ヒヤッとしたが北稜では、たまにあるので想定内。
年々浸食が進み、ルートグレードが徐々に上がっている感じ。

鷲ヶ峰山頂の標柱も朽果ててバラバラになっていた。



鷲ヶ峰 山頂



鷲ヶ峰よりこのピークを越え懸垂下降点へ移動

懸垂下降地点も浸食がかなり進んで、岩峰との間に溝が出来ていた。



懸垂下降し浸食されて出来た溝を乗り越え、改めて下降





ナイフリッジと根子岳、その奥に祖母山を望む



ナイフリッジの縦走、後方一番奥のピークが鷲ヶ峰



ナイフリッジの縦走では以前とさほど変わった感じはなく、スリル満点で景色も最高



ナイフリッジ縦走の終盤、ナイフリッジを避け右側の側面を巻く



ナイフリッジとガラ場がやっと終わり、ブッシュ帯の前で一休み



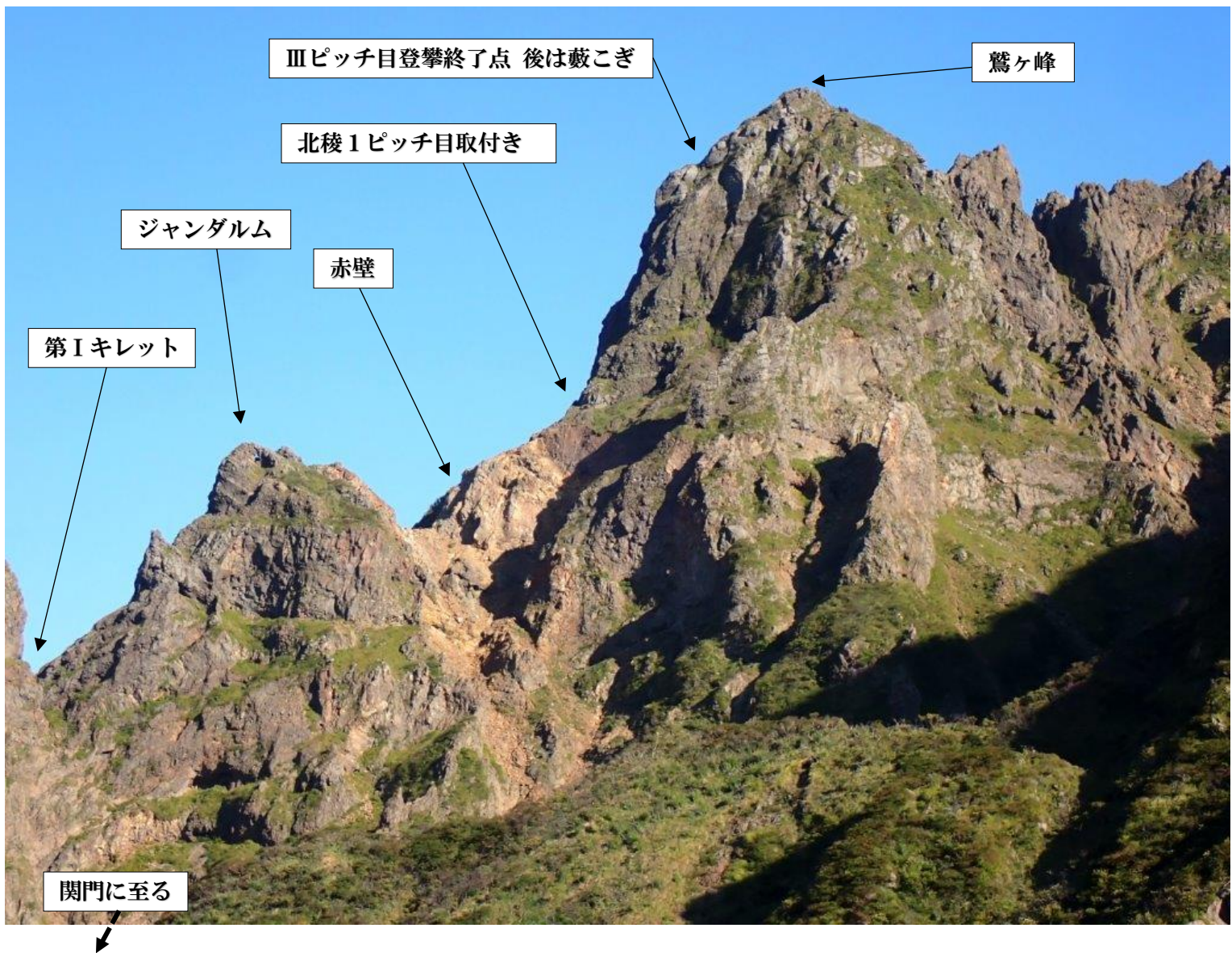
前方が一般道、右の岩峰が天狗の舞台の端



14 時 10 分一般道に合流



北稜終了点、一般道に合流、8 時間 40 分を要した お疲れさま !



休憩後、仙酔尾根経由で仙酔峡に、16時30分前に下山。概ね11時間行程であった。

北九州山岳同好会「嵐」

Reported by S.Okamura Photo presented by S.Okamura